

『 笑顔あふれるピア・サポート活動 』

藤枝市立高洲南小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム（例：1年生）	職員研修	
4月	<p>【生徒指導の五本の柱が機能する】</p> <p>五本の柱「人間的ふれあい」「相手とのかかわり」「存在感」「自己決定」「発達の可能性」</p> <p>日々の授業の中で、聴く心を育む。主体的に聴く心、友だちのおもいに寄り添って聴く心を育てる。</p>	1年生を迎える会	ピア・サポート活動の取組を配布。 職員の共通理解を図る。	
5月		わくわく班づくり集会	「職員会②」「ピア・サポートリーフレット」「子どもが安心して学べる学校づくりに向けて」を使つての学習会)	
6月		わくわくあそび	②「聴き方」(相手が話したくなる元気の出る聴き方)	「学年部研修」 授業における子どもの具体を価値づける。
7月				「職員会⑤」(生徒指導提要の紹介)
8月				
9月				「随時」学年会などで子どもの情報交換をし、本人に知らせる。
10月		運動会		「学年部研修」 授業における子どもの具体を価値づける。
11月		わくわくあそび		「研究発表会」 授業における子どもの具体を価値づける。
12月				
1月				授業における子どもの具体を価値づける。
2月		わくわくあそび		
		6年生ありがとうの会		
	児童会・委員会引き継ぎ式			
3月				

1 本校のピア・サポート

本校では、学校の核となる「授業」で人を育てるということを職員が共通理解している。生徒指導の5本の柱「自己決定」「人間的ふれあい」「相手とのかかわり」「存在感」「発達の可能性」が「ピア・サポート」の信念に通じるものと確信し、ピア・サポートという言葉が子どもの具体の姿となって表れるような手立てを講じてきた。特に、授業とわくわく班活動を軸としてピア・サポート活動を行っている。

2 特徴的な活動

(1) 授業の中で〈提言5〉

①授業像づくり

新しいクラスになると、新しい仲間とどのような授業をしたいか話し合う。自分の授業に対する思いを語ったり、友だちの思いをじっくり聴いたりすることを通して、クラスみんなでかかわり合いながら学んでいこうという意識が高まっていく。授業像づくりの話し合いは、相手の考えを尊重し、あたたかく聴く雰囲気をつくる大切な時間にもなっている。子どもたちの思いと担任の思いを重ね合わせた『授業像』は学級全体の授業の礎となっていく。

②聴く

『聴く心 思考する間 動き出す姿』の3つを重点として研修を行っている。相手の思いに寄り添って聴く心を育てていくこと、一人一人の学びがより深くなるような聴き方を育てていくことを大切に、職員で共通理解をしてきた。本気で友だちの考えを聴こうとすることで、「つまり、〇〇さんが言いたいことって〇〇ってこと?」、「どうして、そう思ったの?」など、友だちの考えを言い換えたり、さらに深掘りするような反応も増えてきている。

(2) わくわく班活動の中で〈提言1.6〉

本校では、仲間意識や集団への所属感、子ども同士のかかわりを広げていく期待感を高めるために、子どもたち自身で班をつくっている。1～6年生で結成されたわくわく班は、ロング昼休みに集まり、6年生が計画した班遊びを行う。班をつくるにあたり、どのような班をつくったらよいのか子どもたちに考えさせると、「まだあまり話したことの無い友だちと組もう。」、「低学年の子のサポートができるようなペアにしよう。」という声上がる。班づくりが新しい出会いのため、男女関係なく他学年の友だちとも仲良く過ごすためであることを、多くの児童が理解して班づくりをしていた。

わくわく班遊びは、同じ班の1～6年生みんなが楽しめるような遊びを6年生が計画し、実行している。ドッジボールをして遊んでいる班では、なかなかボールがとれない低学年の子にボールを渡して優先的に投げさせてあげたり、おにごっこをしている班では、低学年の子の走る速さに合わせて追いかけたりする姿が見られた。また、わくわく班をつくったばかりの時期には、同じ班の子の名前を覚え合うために、室内で名前を呼ぶ必要がある遊びを考えるなど、目的に応じて下級生を楽しませる工夫をする姿も見られた。遊びの内容を目的に応じて考えたり、わくわく遊びを仕切ったりすることで、6年生の自立とリーダー性が磨かれていく。そして、このような6年生の姿を見ている下級生たちは「ぼくたちもあんな6年生になりたい。」と憧れが連鎖していく。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本校の校訓「自立 愛」は授業や学校生活の中に浸透しており、高学年が低学年の憧れの存在となり、下の学年に引き継がれている。また、低学年が高学年の成長を促している場面も見られる。その姿は、他者を思いやり、かかわりを大事にしていく「ピア・サポート」の概念と一致する。教職員が入れ替わる中でも、その伝統を引き継いでいきたいと考えている。

そして、来年度は生徒指導部や特別活動部と協力して、「人間関係づくりプログラム」を用いて子どもたちのソーシャルスキルを養っていきたい。



